

## がん遺伝子パネル検査で使用する検体について

### <FFPE 検体作製時の注意>

- ① 組織の採取後は速やかに固定してください。固定には、組織の約 10 倍量の 10%中性緩衝ホルマリンを用い、6~48 時間浸漬固定することが推奨されています。固定不良や過固定は核酸の品質低下を起こします。
- ② 未脱灰検体が推奨されますが、脱灰が必要な場合は EDTA 脱灰を用いて下さい。酸脱灰を行った組織はゲノム解析ができません。

### <提出する病理検体の条件>

- ① 組織切片の推奨の腫瘍面積は、FoundationOne®CDx: 25 mm<sup>2</sup> 以上となっています。間質や正常組織の混在が多い組織では、必要面積はこれよりも多くなりますのでご注意ください。
- ② 推奨される有核腫瘍細胞の割合（全有核細胞における腫瘍細胞の割合）は、30%以上です。炎症細胞の混在が多い場合ならびに肝転移病巣などでは、見た目よりも比率が減少しますのでご注意ください。
- ③ パラフィンブロックは作成後 3 年以内のものをご提出ください。ただし保管条件、固定条件によっては 3 年以内のブロックでも解析できないことがあります。

※ 上記推奨条件を満たさない標本を検査に提出する事自体は可能ですが、解析できない、または有意義な解析結果が得られない可能性があります。

※ 検体の取り扱いについては、医療機関の定める方法、各種のガイドラインに記載の条件に従ってください。